

組織現勢 (3月1日現在)

組合員数 19,356 世帯
出資口数 88,473 口
2月の新規加入 24 世帯
2月の増資口数 122 口

No. 358 再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所
城南保健生活協同組合
本部事務局 大田区大森東4-6-15-101
TEL (3762) 0266
振込銀行 さわやか信用金庫大森支店
口座(普) 0469459
発行 「城南の保健」編集委員会
毎月1回発行・定価1部 30円



高野高虎さんのバイオリン



▲品川コカリナ
アンサンプル



◀飯田敏弘さん
(東京南部生協)の
タップダンス



虹の家みちづかの合唱



波田野皓二さんのマジック



会場が一体となって
楽しめました ▼



若返り班の創作ダンス

第1回城南文化祭を開催

初めてのとりくみ
で140人の参加

2月23日(土)、大森スポーツセンターで第1回文化祭を行いました。初めてのことで、会場の規模、舞台の進行や展示の方法などすべて手さぐり状態で、至らない点も多々あったと思いますが、出演者や出品作品の素晴らしいおかげで、何とか成功裏に終わることができました。当日は140人を超えるみなさんにご来場いただきました。

舞台出演に 13グループ

舞台と展示に分かれて、組合員さんの日頃の趣味やサークル、班での活動を発表しました。舞台では、13グループ・個人が

展示作品は 17グループ

展示コーナーには17グループ・個人のみなさんが、絵手紙・書道、ちぎり絵、絵画、工芸作品、写真、パネルなどを出品してくださいました。

展示室が狭く、場所もわかりづらかったので、次回をもっと広いスペースを確保したいと思っています。それほど多種多様な作品が発表されました。

東日本大震災から2年

3月10日、初夏のような暖かな陽気、日比谷公園では、たくさんの人びとがそれぞれの休日を楽しんでいました。そんな中、公園の噴水広場にはたくさんの方々が並んでいました。

翌11日、東日本大震災から2年を迎えます。このイベント群は「3・11東日本大震災市民のつどい」の会場で、特設ステージの横にはたくさんの方々が並んでいました。史上最大の太陽光発電ステージ大作戦と銘打たれ、復興支援と反原発を訴えていました。

日比谷野外音楽堂前にも、たくさんの方々が集まっています。「東日本大震災復興と原発ゼロの実現をめざす3・10東京集会」、午後には「原発ゼロ大行動」も開催され、請願デモが行われました。

歌や演奏、ダンス、マジックなどでご出演いただきました。この文化祭のために練習を重ねてきたグループや、健康まつりなどでお馴染みのプロ技の演奏やマジックなど実に多彩な内容で、会場には顔見知りの方の意外な特技を知った驚きや感動に包まれました。

展示コーナーには17グループ・個人のみなさんが、絵手紙・書道、ちぎり絵、絵画、工芸作品、写真、パネルなどを出品してくださいました。

展示室が狭く、場所もわかりづらかったので、次回をもっと広いスペースを確保したいと思っています。それほど多種多様な作品が発表されました。

展示室が狭く、場所もわかりづらかったので、次回をもっと広いスペースを確保したいと思っています。それほど多種多様な作品が発表されました。

東日本大震災から2年

「3・10東京集会」では、被災された方々からの訴えがありました。「福島の実情を伝えたい」と県内外で詩や作文の朗読をしている高校生のグループ「たねまきうさぎ」の4人の女子高生が、被災し会津へ避難した中学生の作文を朗読。地震に遭い、原発事故により避難を強いられ、家に帰ることができない現実。あの日以来、福島の子どもたちは、不安な日々を過ごしてきています。

そして、「大人の人間に言いたいこと。この2年、原発事故は少しずつ遠くなっています。今回の事故を忘れないために現実を見てください。私たちの声を聞いてください」

「福島原発事故はもう二度と繰り返してはなりません。なので今回の事故から学び、若い

品を寄せていただきました。ありがとうございました。

組合員相互の 交流の契機として

文化祭にとりくんで、組合員のみなさんの趣味や活動の多様さを感じることができました。

城南保健生協には多くの班やダンス・ヨガ教室、サークルがあります。一人ひとりの組合員さんがそれぞれの趣味や特技を生かして班会やサークルを立ち上げ、新しいつながりを築いていけば、城南保健生協の活動はより大きく豊かなものとなっていくに違いありません。

この文化祭を契機にして、班会やサークルづくりに挑戦し、組合員さん相互のつながりを広めていきたいと思います。(事務局)



被災地から「たねまきうさぎ」の訴え

世代が今、福島原発事故の全容をきちんと学び、将来どんな社会をつくるのかをきちんと考えることが大切だと思います。そして私たちは今度は自分たちで社会への責任がとれるように、もっと自分たちで選択し、決定することが必要だと思います」と訴えました。

私たち大人は、この声を正面から受けとめ、責任をとりななければなりません。

(生協本部・梶原)

腹八分

政権が変わって世の中が一気に、あべこべの方向にすすみはじめています。まるでフィルムを逆にまわすように、政権は

昭和16年12月8日をめざし、昭和20年8月15日を再び迎えるようとしているかのようです。天皇を頂点にいただき、著しく国民の自由が制限され、さらに地主・財閥・大金持ちによる搾取も思いのまま。そして軍部の擡頭(たいとう)で国民には逃れることのできない重い任務が科せられる。小林多喜二の蟹工船の時代へ逆行です▼その逆行を政権党は、美しい日本を取り戻すと理由づけています。大手のマスコミも、戦前の大本営発表をそのまま垂れ流し、国を破壊に導いた責任を忘れたかのようになり「美しい国」を煽(あお)り、国民視線からの報道は影をひそめています。12月8日、大本営陸海軍部発表の開戦の報道を聴いて、日本国民はそれまでの閉塞状態から解放されたかのように狂喜しました。美しい国、そして神国日本という幻想が、一気に日本中をおおいつくしたのです。そうしてそれは8月15日の始まりでした▼今、かつて勢いのあつた左翼が変わって右翼が勢いを強めようとしています。ここでも右翼とは本来の暴力団と結びついた脅しによって生業とする右翼と違って、心情的に日本を愛する善良な人々です。右翼であろうと左翼であろうと、そのどちらでもなくとも日本を愛していることに変わりはない。そしていづれもみんな善良です。「日本を取り戻す」勢力は、その善良な人々に襲いかかろうとしています。